

# ガラスの天井

現代宗教研究所長 赤堀正明

西洋の女性を画いた絵ではフェルメールの「真珠の首飾りの女」が好きだ。召使いの女性を画いたともされているが、フェルメールの愛情が溢れ出ている。愛されている女性の美しさが瞳の輝きの内に見てとれる。愛されている人が、愛している人を見ている瞳の色なのだ。人を好きになると人はこんなにも美しくなるのかと驚かされる。

日本の女性を画いた絵では長谷川利行の「ノア・ノア」が好きだ。日本画では鏑木清方や黒田清輝の「湖畔の人」など美しい女性を画いた絵は多いが、油絵では利行が良い。日本人の女性だけが有<sup>も</sup>っている素のままの美しさが滲み出ている。はにかみながらも、見る眼はしたたかである。

どちらの絵もその絵の良さはモデルとなった女性に誘発されている。男性である画家は誘発されることを楽しんでいる。

二〇一六年アメリカ大統領選挙はドナルド・トランプ氏とヒラリー・クリントン氏によって争われた。中盤まで優勢だったクリントン氏は終盤トランプ氏に追い上げられ敗北した。一夜明けた十一月九日、支持者を前に語った。

「私はこれまでの人生で信じるもののために戦ってきた。そこには成功も挫折もあつた。正しいことのために戦うのは価値があるということをどうか信じ続けてほしい。(女性大統領という)最も高く硬いガラスの天井は打ち破れていないが、いつか誰かが、私たちが考えているより早く達成してくれるだろう。」(日経電子版)

一九七八年にガラスの天井という言葉が初めて使われた。

二〇二一年に世界経済フォーラムが公表したジェンダーギャップ指数では日本はG7で最下位になっている。

この指数では経済・政治・教育・健康の四分野を、完全平等0、完全平等を1とした数値で表している。日本の分野毎の数値は

|    |       |
|----|-------|
| 教育 | 0・983 |
| 健康 | 0・983 |
| 経済 | 0・604 |
| 政治 | 0・061 |

政治の数値が低い理由は、国会議員の女性比率が九・九%。大臣の比率も十%と行政府は男性社会となっている。日本ではまだ、女性首相は誕生していない。

ファーストクラスの管理職に就くことがガラスの天井を破ることになる。日蓮宗のファーストクラスの管理職は宗務内局であり、そのトップは宗務総長だから、総長に女性が就任することがガラスの天井を破ることになる。

ところが、此所に問題がある。ガラスの天井を破るのは、破れる意識と能力を持たなくてはならない。

歴史的な真の背景には、一つは仏教教義の中で女性は男性より劣るとの誤解が長く通念としてあったこと、二つには仏教は国の中で女性僧侶の出家の動機に問題があった。日本で、尼僧というと大名など社会的に高い地位に居た夫を亡くして髪を下ろし、再婚しないという習俗がある。三つ目には社会の秩序の一環を担う教団の中で、尼僧は常に従属的立場に位置付けられていてトップに立つことは無かった。

此の三つの根底には男性と女性の食物を獲得する上からの主従関係が認められ、その延長線上にあつて脱却できないでいる。

日蓮宗は発足当初から男僧中心の教団であったと考えられる。

明治五年のいわゆる肉食妻帯令で僧侶の結婚は勝手とされたが、教団としては、良いとも悪いとも結論は出されないまま、今日に至っている。

一般社会に尼僧も結婚することの当然を説明しなくてはならない。

僧侶社会も、世間もいまだ、尼僧の結婚は寺の後継や特殊な事情のためで、夫帯する尼僧の登場を望んではいない。

法華経に説かれる女人成仏は提婆達多品第十二に至って最高潮を迎える。女性が仏となることがどうしても信じられない人々のために竜女は男に成れることを示現する。

この箇所をサンスクリット訳では直訳的に次のように表現している。

「女性器が変いて男性器となった」

竜女は女とは何だかを示すために、男に成れることを以て現したのである。

これは男が優れているから男に成るのではない。男にも成れることを示し、自らの存在を明らかにしたのである。

男は女から生まれるのだ

今も